

湧別町立ゆうべつ学園



学園だより

令和7年5月30日

(第3号)

校長 若松 征一

重点教育目標「一歩踏み出す心 自ら学ぶ 支え合う仲間」
～自分から 自分のために みんなのために～

凡事徹底一あいさつに心を込めて

先日はお忙しい中、保護者面談にご協力いただき、誠にありがとうございました。いただいたご意見は、今後の教育活動の改善や子どもたちのよりよい成長のために、しっかりと生かしてまいります。

子どもたちの学校生活が少しずつ落ち着きを見せる中、地域でも春の営みが本格化し、稚貝の放流や野菜の作付けが進むなど、湧別の春もゆっくりと歩みを進めています。

校内では、6月7日（土）の運動会に向けて、子どもたちの元気な声が響きわたり、どの学年も練習に真剣に取り組み、仲間と声をかけ合いながら心を一つにして、本番に向けた準備を進めています。

後期課程では、各種大会や練習試合、地域行事での演奏など、部活動にも意欲的に取り組む姿が増え、子どもたちの成長の芽が日々の生活の中に確かに感じられます。

こうした充実した日々だからこそ、あらためて大切にしたいのが、「凡事徹底（ぼんじてってい）」の姿勢です。靴をそろえる、掃除を丁寧に行う、提出物を期限までに出す、そして何よりも「あいさつ」を自分から交わすことは、どれも特別なことではありませんが、こうした日常の積み重ねが、子どもたちの心を育てる土台となると考えています。

本校では、児童会・生徒会を中心に、朝のあいさつ運動やハイタッチ活動に継続して取り組んでおり、最近では学年を問わず多くの子どもたちが、自ら「おはようございます」「さようなら」と声をかける姿が見られ、学校全体に温かな空気が広がっています。

先日、地域で読み聞かせボランティアとして活動されている方から、夕方道で出会った野球少年団の子どもが「こんばんは。いつも読み聞かせ、ありがとうございます！」と声をかけてくれたというお話を伺い、「胸が熱くなりました」と語られる様子からも、あいさつが人の心を動かす力を持っていることを改めて感じました。また、地域の方からは「児童会のハイタッチ運動を、地域の住民と一緒にできたら素敵ですね」という声も届いており、あいさつは学校と地域をつなぐ小さな一歩であり、心をひらく扉でもあることを実感しています。

今年度の重点目標である「一歩踏み出す心」を、こうした日々の行動の中にこそ育てながら、今後も丁寧な教育活動を積み重ねてまいります。保護者・地域の皆様には、日頃より本校の教育活動にご理解とご協力をいただいておりますことに、心より感謝申し上げます。今後とも変わらぬご支援を賜りますよう、よろしくお願いいたします。



後期課程で生徒総会が開かれました。各学級で話し合った意見や質問を、代表の生徒たちが堂々と発表し、よりよい学校づくりに向けて意識を高めました。



総会で活発な議論となるよう呼びかける9年生「遠藤 迅」さん(現生徒会長)



各委員会の答弁を真剣に聞く生徒達



学級を代表して質問や意見を行う生徒達



避難訓練の振り返りを真剣に聞く児童生徒たち

5月13日(火) 避難訓練を行いました。湧別町消防署員に指導を受けながら1年生から9年生まで真剣に避難行動について学びました。

運動会全体スローガン

～笑顔と気合い、
助け愛～



全校リレーの確認する児童生徒たち



前期後期の保体委員が模範を行うラジオ体操

後期紅組テーマ
熱血勝利 紅勝夏
～あきらめないでやりきる～



後期白組テーマ
燃え尽きろ！真っ白に
なる瞬間まで
～チームで楽しく一致団結～



紅白のテーマ決めを行う7・8・9年生の生徒達



みんなの意見まとめるチームリーダー



全国体力運動能力テストの一環として、後期課程の生徒がシャトルランに挑戦しました。みんな自分の限界まで走りきっていました。前期課程も、運動会終了後から測定を実施する予定です。



一定の区間を徐々にスピードを上げながら回数を測定するシャトルランに挑戦する後期課程の生徒たち



児童会が中心となり、朝のあいさつとともに元気にハイタッチを交わし学校中が笑顔でいっぱいになっています。



ハイタッチを呼びかける児童会



学園の学びを語り合う委員の方々

5月22日(木)第1回学校運営協議会が開かれました。今後の学園の子どもたちの成長について熱心に話し合いが行われました。

6月の行事予定は
こちらを読み取って下さい。

